

バリアフリー落語  
「大笑いゼーションでノーマライゼーション」

桂 福点

桂福点さんは、1968年兵庫県川西市生まれ。先天性緑内障のため中学生のころに視力を失いましたが、子どものころから音楽に親しみ、大阪芸術大学に入学、音楽療法を研究し、卒業後、バンド「お気楽一座」を結成しました。

1996年に桂福団治師匠に弟子入りし、宇宙亭MAKA、次いで音福亭MAKAとなりました。バリアフリー落語や古典落語を学びながら、独自の音楽漫談や「お気楽一座」の活動にも取り組んでいます。2009年に「桂福点」を襲名しました。

日本音楽療法会認定音楽療法士、岐阜県音楽療法士として、作業所などでユニークな音楽療法も行っています。

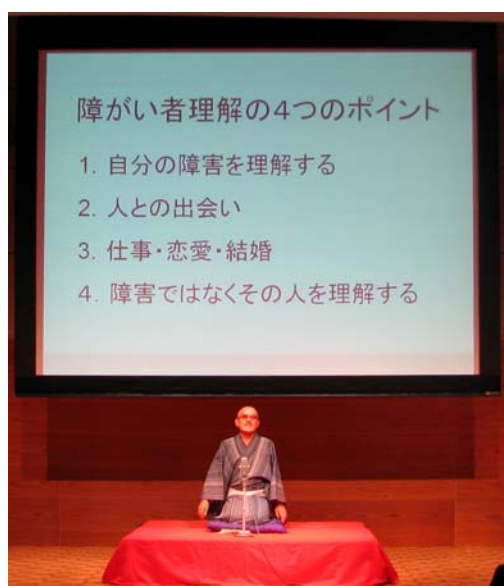
現在、NHK教育テレビバリアフリーバラエティーやコミュニティラジオFMわいわい（神戸市長田区、77.8MHz）「桂福点のお気楽島ラジオ」などに出演中です。

冒頭、仙台で初めて講演する機会が得られたことに対する感謝の言葉があった後、「お金持ちになる体操！」の紹介があり、会場は巧みな話術にぐいぐい引き込まれて行きました。

音楽療法の簡単な実験では、イントロクイズで正解した回答者が歌ったり、水戸黄門の歌を歌うだけでなく、足を踏み鳴らしながら手も叩くなどして、体の動きを誘発する音楽の力を体験しました。

子供の頃から落語家になりたいと思ってはいたものの、なかなか弟子入りさせてもらえなかったこと、そして弟子入りはしたが桂の名前をもらうのに13年かかったことなどが、面白可笑しく語られました。

緑内障の手術を何回も受けたこと、色々なあだ名をつけられたり、いじめにあったこと、盲学校に転校して自分より障害の重い子がいることを知って、その子の力になれたらと思うようになり、自分の障害を理解することは他人の障害を理解することだと気づいた





とのこと。

大会資料と共に事前に配布していた半透明のビニール袋を、半分また半分と折り曲げるに従って次第に見えなくなっていくことを通じて視力障害の進行を体験しました。

自殺を考えたこともあったが、友人の勧めで音楽を楽しむようになって人生を前向きに考えられるようになったこと、ある先生から「人の心を暖かくしたり、明るくする、そんな仕事を将来したらどないや」と言ってもらったことを通じて、人との出会いの大切さを知ったとのこと。

音楽が好きだったので大阪芸術大学に進み、音楽療法だけでなく声楽も学んだとのこと、立ち上がり、イタリア語で「オー・ソレ・ミオ」を歌いました。素晴らしいテノールで、「これは本当に福点さんの声なの？ロパクじゃないの？」と疑ってしまうほどの美声でした。

阪神淡路大震災では、目が見えないために音だけで感じた恐怖からPTSDを発症したこと、リハビリを兼ねて歌っていたいへん喜ばれたことから、音楽療法を始めるようになったこと、笑うことの大切さを知って落語家になりたいと思うようになったことが語られました。

障害があるとどうしても仕事に就きにくく、恋愛や結婚の機会も限られること、「障害ではなくその人を理解する」ことがまだ浸透していないとの訴えの後、聴覚障害者とのメールの話題で会場は再び笑いの渦となった。目や耳に障害があっても、読み上げソフトや音声ー文字変換ソフトを使って電子メールを使えるものの、誤変換による行き違いが生じてしまうことがあるという内容でした。



大会資料と共に事前に配布していた紅白の札を上げ下げするという音楽療法を体験してもらった後、再度イントロクイズが行われました。

最後に、ご自身が作曲された「ほたる」という曲がネイティブアメリカンフルートで演奏されました。

ホームページ「桂福点うえぶさいと」

<http://www.valky.com/happydot/>

ブログ「桂福点のお気楽アイランド」

<http://makachan.exblog.jp/>